

平成23年度 森林総合研究所 北海道地域研究成果発表会

(報告)

日時：平成24年2月29日（木）13時30分～16時00分

会場：札幌エルプラザ 男女共同参画センター 3階 ホール

題名：「北の森（もり）のいまを知る」

- 🔊 発表1：「ササの開花が同調する謎と林業への応用」
発表者) 北村 系子
- 🔊 発表2：「北限のブナの栄枯盛衰：どこから来てどこへ行くのか？」
—最近の植生学や遺伝学の研究成果から—
発表者) 松井 哲哉
- 🔊 発表3：「食べるシカないっしょ！—シカ肉の資源活用拡大にむけて—」
発表者) 松浦 友紀子
- 🔊 発表4：「国内外におけるコンテナ苗生産の現況」
発表者) 竹田 宣明

「北の森（もり）」をテーマに、4課題について発表を行いました。

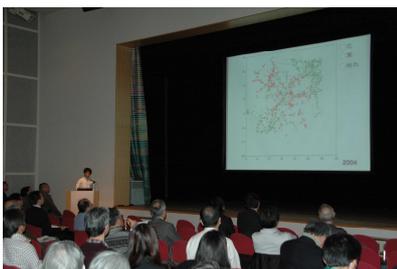
最初に、旺盛な繁殖力で森を覆い尽くすササを、クローン単位で開花・枯死する性質を利用して刈払いを行うことで、林業の現場に応用できるのではないか、という話をしました。

次に、黒松内低湿地帯周辺を北限として分布しているブナは、約1,000年前にこの地に到着したと考えられていますが、どのように本州から北上し、その分布の過程やこれからの話について話をしました。

休憩を挟み3番目に、道内で増え続けているエゾシカを捕獲するだけでなく、食肉として利用すべく流通させるために、衛生管理に必要な体制整備について話をしました。

最後に、現在注目されているコンテナ苗（プラスチック製のコンテナを使用して苗木を生産する方法）の導入の取り組みや今後の課題を、北欧の苗木生産現場における現況とあわせて紹介しました。

当日は、道、道関係機関、森林管理局、北海道大学、酪農学園大学等、一般企業、一般市民などの皆様にとくさんご来場いただきました。(受付数167名)



発表1（北村）



発表2（松井）



ポスター展示



発表3（松浦）



発表4（竹田）



会場内